一般質問

市民の声を市政に

中世鎌倉武将畠山重忠公を明治の大偉人渋沢栄一翁と並び顕彰して戴きたい

永田勝彦

問 深谷市が生んだ、日本資本主義の父、明治の大実業家・渋沢栄一翁の論語を生涯の行動規範とした偉大な生涯に感銘と感動を受ける。近時国際ロータリー第2570地区及び深谷商工会議所も「論語とソロバン」取り上げている。深谷市には渋沢栄一翁と並び埼玉3偉人がいる。中世鎌倉武将畠山重忠公である。勇将と称えられ人間性は質実剛健・清廉潔白であった。深谷市として顕彰願いたい。

答 畠山重忠公は歴史上偉大な足跡を残した武将で顕彰するに足る人物です。広く市民に周知徹底していきたい。どのように顕彰するか、今後各部署と協議してまいります。

問 武将畠山重忠公は二俣川の戦いにて42歳で波乱の生涯を閉じている。知将と言われ「時ならぬ 岸の小笹の鶯は 浅瀬たずねて鳴きわたるらん」の名句を残している。重忠公の人生の規範は「仁」である。栄一翁は「論語」共に孔子の弟子と考えられる。深谷駅北口に美しい渋沢栄一翁の銅像がある。南口に畠山重忠公の銅像建立を望む。

答 知仁勇に優れた武将の鑑畠山重忠の銅像建立は、新市に向けてのふさわしい事業と考えます。建設に当たり協賛会等の組織が立ち上がれば、サポートしていきます。栄一翁の銅像建設には民間による渋沢栄一翁銅像協賛会を立ち上げ市民企業等からの寄附により建立されました。重忠公も同様な機運が整えば、今後設置場所等を検討してまいります。

畠山重忠公

母子福祉事業を実施すべきではないか

根岸清子

問 母子家庭を対象にした就業促進のための給付事業「高等技能訓練促進費」「教育訓練給付金」等の事業を深谷市でも実施すべきではないか。

答 この事業は、県及び市が実施主体で、埼玉県では町村を対象に実施しております。合併に伴い旧町の方が利用できない状況となったため、深谷市でも実施に向けて検討してまいります。

防犯対策の強化を

問 青色回転灯車両の導入で子どもたちと地域の安全確保に取り組むべきではないか。

答 パトロール実施車が限定されてしまうため、導入は行わないが、市では現在の公用車に独自の防犯ステッカーなどを貼り、公務中に防犯パトロールを行い、子どもたちや地域の安全確保に努めてまいります。

問 子ども110番の家を児童に確認、徹底させ防犯等に備えられないか。

答 検討してまいります。子ども110番の家の家族との交流も促進に向けて努力してまいります。

健康対策の更なる充実を

問 要支援、要介護及び生活習慣病等の予防のため、スローピング等で健康増進を。

答 市では様々な健康づくりに取り組んでいますが、スロープを利用してのコースも検討してまいります。

AED
（自動体外式除細動器）

小中学校へAED設置を

問 小中学校への早期設置を。

答 現時点では設置計画はありません。

企業誘致の受け皿づくりの対策はどう考えているのか

小嶋　隆

問 深谷市企業誘致対策プロジェクトチーム設置の目的は。

答 本市の均衡ある発展のため産業振興策が魅力ある地域づくりを進めていくうえで、企業誘致が有効な手段であるとの認識にたち、庁内横断的な組織により的確に対応していくものです。具体的には情報収集、進むべき方向の研究、関係機関との調整を取っていきます。

問 春日丘工業団地の拡張はどう考えるのか。

答 土地利用計画や総合振興計画の策定の中で考えていきます。春日丘工業団地や市内の未利用地については積極的に対応していきます。

県立川本高校の跡地利用について

問 県立川本高校の統合についての跡地利用はどう考えているのか。

川本高校

答 市内の大学に跡地利用の考えがありましたが、県は生徒が在籍中なのでまだ早いとの認識です。新市としてどのような活用策があるか、今後の推移を見ながら考えていきたい。市、学校関係者、県との三者で協議会をつくり、跡地利用について検討していくのも一つの考え方です。

石油タンク火災に備えて

小森秀夫

問 爆発火災時の消火対策はできているのか。

答 タンク腐食状況の検査は、タンク操業年別に12年に一度油をすべて抜き取り、タンクの検査を順次実施し、全てが安全基準を満たしております。事業所内の消火設備については、泡消火設備、大型消火器などが法令の基準により設置され、1年に一度立入り検査を実施しております。次に、消防署の警防規定にある災害出動計画表により石油タンク火災の際は、通常火災の2倍の10部隊へ増強し出動します。また、消防車両は、油火災において威力を発揮する泡による消火に対応した化学車が3台、仮に、深谷市消防の消防力をもってしても鎮圧不可能な場合は、県下応援協定に基づき県内36消防本部の応援や、隣接の伊勢崎、太田両消防本部が駆けつけるなど、応援体制は整っております。

問 住民の避難誘導は誰がするのか。

答 危険物火災（災害）にあっては、住民自らが避難することを原則とします。タンク爆発火災が発生した場合は、第一次出動として各署から10隊、隊員数40名から50名が活動することになります。このうち8隊が消火活動を行い、他の2隊が避難誘導にあたります。避難誘導する2隊にあっては、高齢者や子ども、いわゆる社会的弱者及び避難に遅れた住民などを検索し、煙や熱、風向きなど、その時々の状況を考慮し避難場所に誘導する予定になっています。

平成18年度環境基本計画はどうなっているのか

野澤喜代子

問 平成18年度基本計画について聞きたい。

答 新市全体の内容での作成は、12月を目途に作業しているので、いま少しお待ちください。

問 ごみの減量化の取り組みについてはどうなっているのか。リサイクル推進の拡大についてはどうなっているのか。

答 2つは関連しているので合わせて答弁します。今後分別収集をさらに徹底していくので、リサイクルが、さらに推進され、ごみの減量化が推進されると考えます。今後ごみ処理を行う大里広域市町村圏組合と協議し、一般廃棄物処理基本計画、ごみ分別計画を新市の審議会に諮り、策定していきます。計画内容を市民の皆様に理解していただくため、広報による啓発、パンフレット作成、各地区環境美化推進員の会議等、さまざまな啓発をしてゆきます。

問 環境教育・環境学習の充実の計画は。

答 旧深谷市では、市民環境大学の開校、環境問題講演会、自然観察会等を行ってきました。新深谷市環境基本法7条深谷市基本条例8条を基に、環境計画を作成し、この中で環境教育を取り入れていきます。

問 ごみの分別品目拡大はされるか。

答 今年度定めます。容器包装リサイクル法に基づき、10分類にし、新聞・雑誌を入れ12分類に設定。廃油は現在難しいです。

〈議会あれこれ クイズ …現在の深谷市議会議員には男性議員が何人、女性議員が何人いるかご存知ですか？〉こたえは13ページ